

登録コード	E4532900	開講年度	2026				
授業科目	情報機器活用指導法					担当教員	佐藤 和紀
英文授業名	Method Course for ICT Use in Classroom					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・5時限	対象学生	
講義室	教育学びセンター201			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	情報社会における教員の責務を自覚し、情報モラルやセキュリティ、著作権等の規範を深く理解する。これに基づき、児童生徒の安全な学習環境を守り、適切な情報活用を指導するための高い倫理観と公共的使命感を養う。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	1人1台端末やクラウド等の操作技能を習得する。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向け、ICTを効果的に組み込んだ授業設計や教材開発を行うための、実践的な指導技術と専門的知識を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	デジタル学習基盤を活用して、主体的・対話的で不味学びを個別最適な学びと協働的な学びの実践を通して、どのような授業観で取り組みが良いか、学校現場の授業実践の参観を通して、その知識を身につけていくと共に、議論する						
(5)授業計画	第1回：1) ガイダンス（授業の進め方）、2) デジタル学習基盤を活用して、情報活用能力を育成しながら個別最適な学びと協働的な学びをどのように進めていけば良いかを議論する 第2回：学校現場の授業実践を参観する1 第3回：参観した情報を整理する（オンライン） 第4回：整理した内容を議論する 第5回：学校現場の授業実践を参観する2 第6回：参観した情報を整理する（オンライン） 第7回：整理した内容を議論する 第8回：学校現場の授業実践を参観する3 第9回：参観した情報を整理する（オンライン） 第10回：整理した内容を議論する 第11回：3回の参観で得られたことを整理する 第12回：デジタル学習基盤を活用して、個別最適な学びと協働的な学びをどのように進めていけば良いかを議論する 第13回：デジタル学習基盤を活用して、個別最適な学びと協働的な学びを進めるためのマネジメントを知る 第14回：授業のまとめ						
(6)成績評価の方法	・授業のねらいの到達度を測る毎回の課題（50%）、最終レポート（50%）を総合的に評価する。 ※ 各授業でのディスカッションへの参加状況や受講態度などに応じて成績評価を加味する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：デジタル学習基盤を活用して個別最適な学びと協働的な学びに取り組むためのチェックリストについて、多面的・総合的に取り入れていてさらに独自に調査した内容を極めて効果的に加えていて卓越している。 「かなり上である」：デジタル学習基盤を活用して個別最適な学びと協働的な学びに取り組むためのチェックリストについて、多面的に取り入れていてさらに独自に調査した内容を効果的に加えていてかなり上である。 「やや上にある」：デジタル学習基盤を活用して個別最適な学びと協働的な学びに取り組むためのチェックリストについて、学習内容を取り入れていてさらに独自に調査した内容を加えていてやや上にある。 「水準にある」：デジタル学習基盤を活用して個別最適な学びと協働的な学びに取り組むためのチェックリストについて、学習内容を取り入れていて水準にある。						
(8)事前事後学習の内容	・事前事後学習のために、Google Chatを活用して授業を展開していく。 ・事前学習：Google Chatに掲載してある関連URLからWebサイトの閲覧、教科書の該当する箇所の確認をし、問題意識を明確にしたうえで授業に参画する。 ・事後学習：各回の授業リフレクションをGoogle Chatに記入し、学生間で共有する。						
(9)履修上の注意	・本科目の受講開始前に「教育実習Ⅰ」を履修済み、あるいは履修中であること。 ・各回の授業の前後にGoogle Chatにアクセスして事前事後学習に努めること。 ・各回の授業後にGoogle Chatで意見交換をすること。 ・長野県内の学校現場への参観を踏まえて議論するため、学校現場への参観が可能なことを前提とすること。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	・附属次世代型学び研究開発センター2F 佐藤研究室 E-mail：sato_kazunori@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：（前期）メール予約で随時対応 （後期）メール予約で随時対応
【教科書】	教科書を作成中です。授業開始後にお知らせします。
【参考文献】	